病気と青汁

防ぐにも治すにもしっかり飲もう

医学博士　遠藤仁郎著

—(青汁叢書第五輯)—

遠藤青汁の会発行

白血病

白血病は、白血球の癌といった不治の病気だが、さいきんでは、いろいろ有力な新薬が開発され、その使用法も進んできたので、ことに小児の場合、かなり寿命をのばすことができるようになっている。

しかし、これらの新薬は、いずれも骨髄（造血）機能にたいして、強く抑制的に作用するため、病的の白血球のみならず、正常の白血球（細菌感染を防いでいる）も、また血小板（出血を防ぐ成分）も、甚しくおかされ、減少する。

そこで、細菌にたいする抵抗力がよわめられ、強力な抗生剤が併用されても、耐性菌やカビの感染（致命的の）がおこりやすい。また、甚しい出血を来して、直接に生命をおびやかされることにもなる。ために、現在の白血病の化学療法の成否は、いつに感染症と出血の予防にたいする補助療法の確立にある、といわれている。

そして、これらの副作用にたいし、白血球輸血（白血球だけを輸血する）、血小板輸血（血小板だけを輸血する）が行われているが、何分にも複雑な操作を要するので、設備の完備した大病院以外、どこででもやれるというものでない。

なお、この療法は、もともと病的白血球の全滅作戦をねらったもので、そこ（血液中や骨髄中）にあるものは殲滅できるかも知れない。しかし、病的白血球をつくるようになっている根本の原因には何らの影響をもあたえることはできない。

緑葉食、青汁がよいのでないか

ところで、白血病と同じ薬がつかわれている癌その他の悪性腫瘍にたいする化学療法や、コバルト

照射などの場合（いずれも白血球の減少を来しやすいのだが）、徹底した緑葉食青汁、イモ・マメ・ナッパ・青汁食、あるいは、ただ青汁を十分に（一日四～六合、もとのナッパ一～一・五キロも）のむことだけでも、白血球減少や、疲労、倦怠、食欲不進などといった副作用が防がれる、という注目すべき事実がある。

おそらく、これは、栄養を正しくすることによって、全身の抵抗力がたかめられるため、また、各種の食品公害的な害毒（その中には、癌やその他の悪性腫瘍の発生に関係しているものもあるかも知れない）を除くことでも、全身ならびに骨髄機能にたいして有利な影響をあたえるからであろう。

してみると、白血病の場合にも、同様の食がよいのではないか。少なくとも骨髄の機能をつよめ、白血病剤による障害にたいし、抵抗力をあたえて、正常白血球や血小板のはなはだしい減少を招くことがさけられるのではなかろうか。

（四七・九）